

初代楽天GMを 喪主プロデュースで追悼

マーティ・キーナート お別れの会



スタイリッシュなスタンド花で、気品のある祭壇を表現した

プロ野球の東北楽天ゴールデンイーグルスの初代ゼネラルマネジャー（GM）を務めたマーティ・キーナート氏のお別れ会が、2024年12月1日、「仙台迎賓館 斎苑 別館」で営まれた。

1946年に米・ロサンゼルスで生を受けた故人は、スタンフォード大学在学中の65年、交換留学生として初来日。再来日後の72年には、日本企業が所有した米国マイナーリーグチームであるローダイライオンズのGMに抜擢。興行成績を上げた実績を買われ、94年に太平洋クラブライオンズ（現埼玉西武ライオンズ）のフロントに入閣。米国のスポーツビジネスに精通していた故人は、レディースナイターの導入や、身体障害者のための球場アクセスの改良、球団のマスコットキャラクターとして本物のライオンをいまはなき平和台球場で飼うなど、斬新なアイデアでファンサービスに努めた。

その後、日本におけるスポーツライセンスビ

ジネスをスタートさせたほか、ライターやジャーナリストとしても活躍、2004年には新球団・楽天の初代GMに就任し、広報役を務めた。さらに18年からは、バスケットボールBリーグ・仙台89ERSのシニアゼネラルマネジャーに就任するなど、プロバスケットボールにも携わった。

故人は、文武両道も推奨しており、教育活動にも尽力した。早稲田大学スポーツ科学部客員教授や東北大学特任教授、仙台大学副学長・教授を務めたほか、晩年は教育講演に数多く登壇した。

鬼籍に入ったのは11月8日のこと。故人の息子3人が米国在住であり、帰国可能な日程が3週間以上先であったことからエンバミングを施した。葬儀施行は株式会社清月記。故人は生前、清月記社長の菅原裕典氏と親交が深かったことから同社に依頼。多くの会葬者が見込まれたため、大型式場を擁する仙台迎賓館 斎苑 別館での施行となった。なお、式の演出



球団カラーのクリムゾンレッドをアクセントカラーにしたメモリアルコーナー



追悼メッセージの上映。左から、デーブ・スペクター氏、王貞治氏、岩隈久志氏（元楽天投手）、小錦八十吉氏（元大関）、麻生太郎氏



喪主挨拶



MONKEY MAJIK（プラント兄弟）による献奏



献花の様子



出棺前のお別れの様子

やコンテンツの提案・作成は、故人の妻であり、喪主のキーナート京子氏が行なった。

祭壇は、バラやカーネーション、コチョウランといった生花を用いて気品のある雰囲気仕上げた。

式進行は、お祈りの言葉から入り、故人のキャリアを振り返った動画の上映、弔辞、各界からの追悼メッセージ、家族や友人を取めた動画の上映、子どもたちからのスピーチ、キーナート京子氏の謝辞と続いた。その後、生前に親交が深かった、仙台在住のミュージシャンであるMONKEY MAJIKが献奏したのち、献花、出棺へと進んだ。なお、遺族・親族をはじめ多くの外国人参列者が見込まれたため、掲示物等の印刷物や式のMCは英語を併用した。

当日は友人ら520人が参列したほか、海外向けに式の様子をYou Tube Liveで生配信。明るい人柄と幅広い人脈で日本のスポーツ界に多大なる功績を残した故人を偲んだ。



用意したボールに参列者が記名し、故人に手向けた



門構

式次第	
10:30	開会の言葉 森井誠之氏 （楽天野球団 代表取締役社長） お祈りの言葉 キャリア人生（動画） 弔辞 池田哲雄氏 （ベースボール・マガジン社社長） 朴澤泰治氏（朴沢学園理事長） デービット・ホルトン氏 （仙台89ERS元会長） 各界からの追悼メッセージ（動画） 弔電 ファミリーと友人たち（動画） キーナート子どもたちより（4人） 謝辞 喪主 キーナート京子氏 献奏 MONKEY MAJIK
12:00	献花 お別れ 出棺